

薄っぺらになろうと思うので、
 社会の表現が苦手なのだが、
 心をたたくられるものをききか
 けに描く事もある。滅又と離
 農、誘音干拓、狂牛病、T
 P.P...。絵は告発的なも
 のを思いつくもあつた。
 今は、絵として心地よいとい
 うか、共感するものも大切では
 ないかと考えるようになった。
 自分の地に書いた所で勝負す
 るのが本道ではないか。



作品4 「山合いの棚田」(2000年)

0) など土佐和紙や
 中国の和紙(竹の和
 紙や雑草の和紙)と
 の出会いがあつた。
 「野火」(201
 1)は、心たたくれ
 ながら描いた。「畦
 道の唄」は昨年のア
 ンデパンタン展出品
 の作品。
 「枯草」(197
 9)「焼かれる草」
 (2008)など雑
 草たちの肖像を描い
 てきた。雑草が一番
 の敵だが一番の仲良

「自分の立ち位置」浅野さ
 んという画家が何ぞい描く
 か悩んでいた時、ある人が自
 分の回りに一つの田をかき
 「これが自分の立ち位置であ
 り、この立ち位置で描けばよ
 い」と教へられ悩みが晴れた
 という話に共感。

大地の中で

「冬の田」1979年 描
 いて途中に八甲田山の映
 画を見て、雪の影響
 を受けた。

働きながら

し。草の生きざまは、種を汲
 山飛ばし根を地下に張る。草
 には共感するものが多い。
 働きながら、また様々な社
 会活動をしながら絵を描くこ
 うことは、大変なことであ
 る。だからこそ自分に創作や
 発表の機会を課すことがい



わけ大切なのではないかと思
 う。働きながら創作を続けて
 いる多くの人たちこそが、広
 く日本の文化・美術界を支え
 ていると言ってもらいたい。描か
 ないという意味はない。描いて考
 えていく。描くことで道が拓
 かれ、社会参加や社会貢献が
 出来ることは考えたい。

「時間がないから絵が描け
 ない」といふ言葉は絶対に言
 いたくない」といふ強く強引
 に描き続けてきて、最近やは
 りもっと「落ち着いて描いて
 描きたいな」、多少とも無
 駄な時間がほしいなと思う。
 心に残る作品を目指して描き
 続けたい。(今倉・編集部)

平美ホームページ
 担当者日誌 ②
 昨年中で、3年越しの「訪
 問人数1000人突破」を十
 分に達成出来るものと期待し
 ていました。しかし何故か年
 末からカウンターが鈍り、そ
 れが実現したのは1月27日未
 明まで待たねばなりませんで
 した。

第63回平美展の会期日程が
 早くなりました
 会期 2014年8月5日~10
 日

搬入日 8月3日(日)
 展示作業 8月4日(月)

■美術館の搬入・搬出規定が変更されます
 このほど、美術館より「搬入・搬出に関しても開館
 時間帯の事故の懸念もあり、個人の車両を無くし、業
 者・団体などで取りまとめて台数を制限する事」など
 を申し渡されました。

【搬入・搬出の主な変更内容】
 ◆搬入時間は午前8時~11時まで。◆車両搬入は午
 前8時から9時まで。◆個人での車両搬入は出来ない。
 業者・団体による一括搬入とする。◆手持ちによる搬
 入は従来どおり可能。◆展示作業は正午から17時ま
 で。◆搬出は午前9時から11時まで。◆搬出に関す
 る車両は搬入時と同様に制限されます。

【平和美術展の対応について】
 関西美術家平和会議としては、車両搬入の業者委託
 やグループによる一括搬入などの検討。受付業務の効
 率化をめざし出品の事前申し込みや出品料金の振込み
 納金制などの検討が必要になっていると考えており、
 具体的には第一回平和美術展実行委員会に提起し、相
 談することになっています。

会員や出品者の方でも「ホ
 ムへのアクセスが長過ぎてや
 やこしい」との苦言も聞かれ
 ていたので、昨年末思い切っ
 て短いアクセスに変更しまし
 した。しかし混乱を防ぐために
 しばらくは新旧どちらでも対
 応出来るようにしています。
 たゞ、こうした所で訪問者
 が急激に増えるとは思えませ
 んが、徐々に浸透して行くと
 期待しています。
 第61回展・第62回展と、出
 品申込書等もホームぺからタウ
 ンロード出来る様にしたんで
 すが、利用者は誰も居ません
 でした。でも今年は開催期間
 も昨年よりは早いため、ホム
 ペの役割は増々増えるでしょ
 う。こゝして出品者も63回展
 との橋渡しが出来て行けば最
 高思えます。(徳)